

【④こども支援部会】

1. 経過等

(1) 部会の開催状況等

《第 1 回部会》 7 月 4 日（月）10 時から 12 時、福祉センター福祉団体活動室で開催
（協議事項）

① 部会長及び副部会長の選出

齊藤宇開委員を部会長に三井圭子委員を副部会長に選出した。

なお、委員構成は以下のとおり（6 名）

- ・ 齊藤 宇開部会長 ・ ・ ・ たすく株式会社代表取締役
- ・ 三井 圭子副部会長 ・ ・ ・ 社会福祉法人ラファエル会鎌倉地域支援室相談支援専門員
- ・ 田中 香織委員 ・ ・ ・ 鎌倉市こどもみらい部発達支援室室長
- ・ 吉原 正人委員 ・ ・ ・ NPO 法人鎌倉はっぴーくらぶ はっぴーわん代表
- ・ 渡部 みどり委員 ・ ・ ・ 鎌倉市教育委員会教育指導課指導担当担当係長
- ・ 渡会 鮎美委員 ・ ・ ・ 神奈川県立鎌倉養護学校支援担当

② 28 年度の検討課題について

- ・ 障害児の就学前から 18 歳到達までの現状を知り、鎌倉市におけるサービスに繋がるプロセスと、ニーズ毎の対応窓口等について、理解共有できる手立てを検討し、形にしていける。
- ・ 教育機関で活用されている支援シートに倣い、福祉機関として発見からアセスメント、支援経過等が親と支援者間とで共有できるツールについて協議する。

《第 2 回部会》 9 月 5 日（火）10 時から 12 時、福祉センター福祉団体活動室で開催
（7 月以降、鎌倉市基幹相談支援センターが事務局に参加）

（協議事項）

① 「サポートファイルかまくら」について

- ・ 市発達支援室で、平塚市、伊勢原市の先行事例を参考に情報共有のツールとして 600 部作成し、28 年度から本格的に配布を始めているが、活用方法をさらに検討していきたいと考えている。（主に、支援の必要な方、説明して希望される方を対象に配布）
- ・ それぞれの事業所で作成する記録が反映できるような工夫があれば良いのでは。
- ・ フェースシートの作成が重要であるが、保護者の負担は大きいと思う。支援が必要であり、使える状態にしておくことも重要である。
- ・ サポートファイル（フェースシート）は、就学相談に活用できると思う。
- ・ 始まりの時にサポートファイルがあることを必要とすることが浸透・定着に繋がる。行政の課題と思うが、ステートメントへ進んでいかないと定着は難しいのでは。

② 「支援シート」について

- ・フォーマットが県から提供されて学校で下書きし、保護者が完成して原本を保管している。3年毎に見直し、卒業時に作成したものは中学校に引き継いでいる。
- ・記載できない親への対応ができていない。また、中学校卒業以降のフォローがない。
- ・サポートファイルがあれば、支援シートと一緒に使えるのではないかな。
- ・生活の面の情報は、事業所と共有すべきでは。

③ 鎌倉市における障害児支援のフロー図等（実態の把握）の作成について

○先行事例の検討

- ・平塚市 『地域療育システム事業』
- ・横浜市 『療育センターの標準的な対応フロー』
『地域療育センターを中心とした早期療育体制と他機関との連携』

○鎌倉市障害児支援のフロー図等の検討

- ・各機関の役割の違いが分からない。ネットワーク（繋がり等）が、誰が見ても分かるものが必要。
- ・課題を意識しながら、現状のフローを示すことが必要では。（見える化を進める。）
- ・医療のフローを網羅するような資料がない。医療との連携が課題である。

2. 今後の進め方

○鎌倉市障害児支援のフロー図及び全体構成の検討・作成

- ・平塚市版を参考に、鎌倉市の現状を示すフロー図等を作成して検討・協議を進め、今年度中のまとめを目指す。

○活用方法等についての検討

○フロー図等の作成を通じて抽出された課題の整理

- ・鎌倉市障害者福祉計画の改訂に合わせて、抽出された課題等について何らかの形でまとめ、市へ提言できるよう検討していく。